

(1) 病院執行部について

病院長、副病院長4名および病院長補佐6名を構成員とし、毎週火曜日に執行部会議を開催している。本会議では、病院経営等に関する迅速な意思決定を行うため、懸案事項についての検討を行っている。

(2) 平成26年度事業報告

1) 経営

平成26年度は、診療報酬の実質マイナス改定や、消費税率改定の影響を受け、病院経営にとって大変厳しい一年であった。そのような状況ではあったが、医療用施設設備の改善・更新、医療環境の改善、人員の増強等を行った。前年度より整備を進めていた高規格手術室、ICUの拡充については工事が完了し、稼働を開始したところである。

新規施設基準の取得、各診療科・各部門の努力もあり、診療報酬の実質マイナス改定や平均在院日数の短縮による病床稼働率の低下の影響等があったにもかかわらず、稼働額は増加した。その一方、病院収入額は稼働と収入とのずれにより、335.4億円(前年度336.3億円)で対前年度比0.9億円の減少となった。

診療状況は、1日当りの手術件数25.0件(前年度24.3件)、病床稼働率84.8%(前年度86.1%)、入院単価70,733円(前年度69,310円)・外来単価13,625円(前年度13,060円)・平均在院日数15.13日(前年度16.14日)・新規入院患者数21,525人(前年度20,529人)であった。

支出においては、人件費が2.6億円の増、医療費は診療報酬改定により卸業者との価格交渉に早期の妥結を求められたことによる値引率の悪化や高額医薬品の使用の増加等により8.6億円の増となった。高規格手術室やICU拡充等による事業による支出も増加し、病院経営に係る総支出額は34.1億円の増加となった。

2) 診療

安全で質の高い医療の提供を目指した活動を実施した。

- ① 7対1看護体制の運用の充実
- ② 脳死移植医療体制の整備
- ③ 病床再配置の実施
- ④ がん診療支援専任スタッフの配置
- ⑤ 積貞棟1階・2階の運用体制の策定
- ⑥ 診療業務標準化の推進
- ⑦ クリニカルバスの整備
- ⑧ 外来における専門性の高い看護業務の整備・推進(病棟・外来一元化の推進、外来における看護相談・在宅療養指導の充実)
- ⑨ 周産期医療環境の整備
- ⑩ 医師・医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の検討(医師の診断書作成業務の支援)
- ⑪ 術前外来の整備
- ⑫ 外来患者の診療に関する基本方針の制定

3) 教育

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コ・メディカルの研修プログラムの一層の充実を図った。

- ① 看護師教育・研修の充実
- ② 優秀な研修医の確保(レジナビ参加等広報活動の強化、次年度臨床研修奨励手当導入準備)
- ③ 医師、歯科医師研修プログラムの円滑な実施
- ④ 次期研修プログラムの改善
- ⑤ 医学教育用シミュレーターによる教育環境の充実
- ⑥ 全職員に対する教育・研修(接遇・倫理、医療安全、感染管理、救急蘇生)の関係部署による実施の総括

⑦ ELNEC-Jの開催

- ⑧ がん診療連携拠点病院としての京都府下のがん医療従事者向け研修の実施

4) 研究

新規医療開発の推進、外部資金の獲得、実施基盤の整備を図った。

- ① 橋渡し研究加速ネットワークプログラムによる臨床研究の体制構築・拡充
- ② 臨床研究総合センターが支援する研究プロジェクトの評価・検証
- ③ 院内臨床試験支援の推進
- ④ 臨床研究中核病院整備事業の採択・推進
- ⑤ iPS研究の促進(京大病院iPS細胞・再生医学研究会の開催)

5) 職員

病院運営の改善、推進に向けて人的資源の増強及び労働環境、処遇の改善を図った。

- ① 総長からの借用定員への対応
- ② 医師の業務負担の軽減
- ③ 病棟医長等の業務の評価
- ④ コ・メディカル職員の処遇改善
- ⑤ 診療に従事する大学院生等の雇用

6) 組織

組織の整備、横断的かつ柔軟な組織体制への転換を図った。

- ① がんセンターの整備・充実(化学療法及び集学的がん病床の運用体制の検討、がん登録の推進と業務体制の確立、緩和ケアセンターの設置)
- ② 手術部の支援・整備
- ③ 病歴管理室の強化(他院撮影画像のオンライン受信環境の一部運用開始)
- ④ 老年内科の廃止並びに高齢者医療ユニットの設置
- ⑤ 臨床心理室の設置
- ⑥ 緩和医療科の設置

7) 施設・設備・機器

昨年度に続き、診療機器の更新・整備及び機器安全管理体制の整備を図った。

- ① 新病棟(I期)の建設着手
- ② II期病棟再整備の計画着手
- ③ 看護師宿舍の借上げの見直し
- ④ 医療機器・施設整備委員会主導の機器更新計画の推進
- ⑤ ME機器センターの機動的運用
- ⑥ 業務委託契約の見直し
- ⑦ 研究室再配置計画の検討
- ⑧ 医療用廃棄物の処理関係
- ⑨ ライフライン設備の再生計画

8) 患者サービス

患者サービスの充実及びアメニティの向上を図った。

- ① 診療前採血のある予約患者のスムーズな診療への移行及び予約患者の受付確認時の混雑の緩和のため、平成26年10月より採血受付及び外来診療受付時間を従来の午前8時30分から午前8時15分に変更
- ② 会計待ち行列緩和（診療科受付での診察待ち時間を利用した保険証資格確認）
- ③ 患者案内システムの機能更新
- ④ 外来アトリウムホールでの映画上映会など各種イベントの開催

9) システム

システムの改善・整備を図った。

- ① 総合医療情報システムの改善
- ② 電子カルテの機能強化
- ③ 総合医療情報システム更新の着手
- ④ 院内ネットワーク統合計画の着手
- ⑤ 利用者統合管理システムの導入
- ⑥ 臨床研究等同意書の電子化

10) 地域連携・広報活動

喫緊の課題として体制の強化及び活動の推進を図った。

- ① 地域連携の強化（京大関係病院長協議会および京大病院臨床懇話会の開催）
- ② 広報活動の強化（オープンホスピタルの開催、京大病院広報の掲載内容の充実）
- ③ まいこネットを通じて患者への情報提供を拡大。
- ④ がん・脳卒中を中心とした地域連携バスを導入し、地域医療機関との連携を強化。
- ⑤ 他医療機関からの紹介患者予約受付時間の延長

(3) 病院運営企画室

財政や政策をはじめとした医療を取り巻く環境の変化とともに、医療サービスへの国民の期待はますます多様化している。病院運営企画室は、経営基盤の安定を通じて大学病院としてより高度な医療サービス・医学研究・医学教育の実現を目指す院内のシンクタンクの役割を担っている。

1) 活動内容

財務分析及び業務・市場分析に基づく各種の経営に関する予測を行っている。これらに基づき、病院長の諮問による経営計画の立案と分析及び予測に必要な調査を行っている。

- ① 診療科（部）別運営カンファレンスを企画・実施し、病院執行部からの要請を各部署に伝え、また各部署のニーズを汲み、病院執行部などに伝える役割を担っている。
- ② ベッドコントロールセンターや診療報酬センター、地域連携部門と連携し、病床稼働率向上に向けた方策について検討を行っている。

2) 主な活動

- ・病院経営改善計画の立案
- ・病院運営カンファレンスの開催（年1回）
- ・診療科（部）別運営カンファレンス実施
- ・部署からの要望事項の執行部へ検討結果を報告
- ・定例ミーティングの実施（毎週火曜日）